DOLL

日向 蒼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＤＯＬＬ

【Ｎコード】
Ｎ２５５０Ｇ

【作者名】
日向　蒼

【あらすじ】
西暦２０５８年。人々は『ドール』と呼ばれる機械人形の恩恵を受け日々を過ごしていた。これは、ある１体の『ドール』と１人の少年の物語。

プロローグ：はじまりのとき

「はぁっ、はぁっ……。」

深い森の中を走り抜ける一人の青年。
しきりに背後を気にする彼は、突然足を止めた。

「先回り……されてたか。」

彼が呟くと同時に、木陰から白衣を纏った男が一人。
数体の『ドール』を連れて現れた。

「これは、これは。社長自ら私を追って来られるとは。」
「それだけ……。あの『ドール』には価値があるということだ。」

沈黙が広がる。
どれくらいの時が経ったのか。
白衣の男は口を開いた。

「あの『ドール』を。ＩＳ－Ｍ－０２を渡してもらおうか。」
「嫌だって言ったら？」

瞬間。
白衣の男の表情が厳しくなり、周りの『ドール』が身構える。

「やっぱりそう来ますか。」

そう言うと、青年はポケットから煙草を取り出し火を点けた。
煙を吸い込み、ゆっくりと吐き出す。

「この状況でよくもまぁ、落ち着いていられるな。」
「焦ったって、何も解決しないだろ。」

そう呟き、もう一度ゆっくりと煙を吸い込む。

「悪いが断る。」
「ほぅ……。」
「あいつは渡せない。昇、お前だけにはな。」
「理解できんな。」
「それはこっちの台詞だ。」

おもむろに腕を上げ指を鳴らす昇。
刹那、周りで構えていた『ドール』達が一斉に飛びかかる。

「……甘いな。」

そう呟くと同時に、青年は地面に小さな機械を叩きつける。
辺りに激しい閃光が広がり『ドール』達はその場に倒れていった。

「悪いな、昇！勝負は一旦お預けだ。」
そう言うと、青年は素早くその場から立ち去った。

「強烈な磁場を発生させ『ドール』の心臓部をショートさせたか……。」

そう呟くと、昇は数歩進み再び足を止める。

「やはり駄目だな。こんな機械仕掛けのドールでは……。」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2550g/

DOLL

2010年10月11日05時12分発行